



被災地の妊産婦さんとみなさんをつなぐ
東北こそだてレター (被災地の今…)

2015/12/15 配信 vol.36

～ ジェスパールの東北支援の収穫と、今後について ～

◆ 支援実績

<支援母子数>

- ・2015年12月計 ※次回掲載致します
- ・プロジェクト開始より累計 20,982組 (2012/7～2015/10)

<活動場所>

- ・岩手 (大船渡、陸前高田、花巻、釜石、大槌、遠野、宮古、久慈)
- ・宮城 (石巻、東松島、女川、気仙沼、亶理、名取、仙台)
- ・福島 (いわき、相馬、南相馬)
- ・福島 (伊達、二本松、須賀川、白河、郡山、猪苗代町)
- ・新潟 (長岡)
- ・埼玉 (川越)・神奈川 (横浜)・東京 (中野)

<活動内容>

育児相談会／茶話会／ベビーマッサージ／ベビ体操／ママのリフレッシュ体操／親子ピクス／仮設巡回訪問

みなさま、こんにちは。一般社団法人ジェスパールです。

今年もあっという間に師走ですね。全世界的には激動の一年でした。

みなさまの一年はいかがでしたでしょうか。

さて、今回は11月に大船渡市で開設した「すくすくルーム」の開所式の様子と、ジェスパールのこれまでと今後の支援についてご覧いただけます。

被災地での「これから」と「今」、そして「未来」。どうぞ最後まで、ご覧ください。

◆ こそだてシップの活動 大船渡市から委託され子育て支援センター《すくすくルーム》をショッピングセンター内にオープン (ジェスパール代表 宗祥子)

東日本大震災直後から子育てサロンを開催している『こそだてシップ』は、その業績が大船渡市からも認められ、市の子育て支援センター「すくすくルーム」の運営業務委託を受け活動を新たに開始いたしました。

さる11月20日に大船渡市の中心街である盛町のショッピングセンター《サンリア》内でセンターの開所式が行われ、NPOこそだてシップの伊藤怜子代表ほか、副市長、市議会議員、ショッピングセンターの代表、またジェスパールの代表 宗祥子、東京から訪問活動を続けている助産師の渡邊寛子も参列いたしました。

開所式では副市長から「ショッピングセンターには、お子さん連れの若いお母さん方がたくさん集まるが、そのような場所にサンリアさんの協力を得て、こそだてサロンを開設することができ嬉しく思っている。少子高齢化が進む中、このすくすくルームを利用してもらい、地域でしっかり子育てをしていくという機運醸成につなげていきたい。」とあいさつがありました。

改装前は18㎡であったスペースが現在は200㎡に拡大されました。プレイルームのほかに相談室や授乳のスペース、事務スペースも確保され、これからの『こそだてシップ』の活動拠点ともなる場所になりました。

震災直後、被災した沿岸部で、孤立した子育てをしていたお母さんたちが集まる場所を作った、伊藤怜子代表の『こそだてシップ』の活動が行政を動かし、市の委託事業として再出発した記念すべき日となりました。



開設式の後は、代表をはじめ、行政の担当者、市議会議員、こそだてシップを支えてきたボランティアの方々が集まり、これからの沿岸部での子育て支援の在り方について、ざくばらんな話し合いが行われました。

この中でジェスペール代表の宗が、「産後ケアの必要性」について、産後の母親を大切にすることが次の子供を産もうという意欲を育てる、最も効果的な少子化対策であることを述べました。

またこの4年間、東京から大船渡市や陸前高田市に月に1・2回通い、子育てサロンに来ることが出来ず孤立した子育てをしている母子への訪問である「赤ちゃん訪問」を行ってきた渡邊助産師からは、訪問して感じた実情の報告がなされました。

従来、高齢者対策が中心であったこの地方の福祉対策が、子育て支援にシフトしていかなければならないことを行政にも実感してもらうことが出来たのは、ひとえに震災以降継続して活動してきたサロン活動、訪問活動の大きな業績です。

今後もジェスペールは「こそだてシップ」の活動を応援し続けます。



◆ 企業様による被災地助成の終了報告と御礼（ジェスペール理事 横山亮子）

震災直後に始まった被災妊産婦支援「東京里帰りプロジェクト」を引継ぎ、「東北こそだてプロジェクト」がスタートしてから早3年半。この間に各地の助産師による産前産後支援を受けた母子は約2万組、母子数に換算すると約4万人にもなります。

「東北こそだてプロジェクト」では、多くの皆様からのご寄付と企業様からの助成金・募金により、ここまで広範囲に現地支援を継続することができました。心より御礼申し上げます。

中でも「東北こそだてプロジェクト」の立ち上げ当初より今年までの3年間、西友/ウォルマート様、ジョンソン&ジョンソン様、日本財団様には、多額の助成金や募金によるご支援をいただきました。

資金ゼロからスタートしたジェスペール設立時、資金提供を申し出ていただいたことは「東北こそだてプロジェクト」の大きな原動力となりました。そしてこの継続的支援のおかげで、現地活動がより強固な支援活動に育つことができました。

今年12月をもって、この企業様からの助成・募金による現地への資金支援は終了致します。これまでのご支援に対し深く感謝申し上げます。



【西友/ウォルマート・ジャパン様】
今年12月をもって支援終了
岩手県・宮城県・福島県の沿岸部全域をご支援いただきました。

【ジョンソン&ジョンソン様/日本財団様】
今年3月に支援終了
福島県内陸部および避難地全域をご支援いただきました。

この他にも【三菱商事復興支援財団様】【無印良品様】よりご支援いただきました。

これからの被災地支援

これまで支援を行ってきた現地支援先の中には、複数のスタッフと共に NPO 法人や任意団体を設立し自立できるようになったところがある一方で、助産師としての本業のかたわら個人的に支援活動を継続している地域もあります。

資金面の自立には団体となることが不可欠ですが、個人的に活動している場合は時間的制約もあり、支援活動のための資金を調達することが難しくなります。

団体であれ個人的活動であれ、助産師の母子支援は地域に欠かせない大切な役割を担っています。
ジェスパーでは、支援活動の継続のため、個人的に活動している助産師達を、今後も継続支援していきたいと考えています。

被災地全域対象の助成金支援が終了した現在、現地支援は皆様からのご寄付のみにより継続されます。

【千趣会様】【アソビズム様】ほか【マンスリーサポーターおよび一般の方】によるご寄付が、それらの支援に充てられます。
引き続き皆様のご支援を宜しく申し上げます。

資金支援を継続する支援先を、改めてご紹介致します。

◇◆おっぱい塾 ～宮城県～

病院勤務の三橋助産師が、時間を捻出しながら、宮城県気仙沼市で母乳育児支援のためのサロンを行っています。

当初は、母子の集まれるような場所もなく、産科クリニックの一角を借りてサロンを行っていましたが、今年に入りこの活動が知られてきたことにより参加者が倍増。
広い会場を借りることもできるようになりました。

気仙沼は、震災被害も大きかった地域の一つ。
それでもその地で生活を続ける家族には新たな命が生まれています。
小規模な活動ですが、母乳育児を中心とした相談やヨガなどの活動を地道に継続し、地域の母子を支える活動は、なくてはならないものになっています。

サロン活動以外にも、「東北すくすくネットワーク」において、母乳育児支援や母親のつながり育成支援などの幅広い育児支援をしています。

◇◆相馬助産所 ～福島県～

相馬助産所の宮原助産師は、福島県相馬市・南相馬市・新地町で妊婦や母子を対象にサロンを行っています。

サロンでは、母乳や育児相談だけでなく、
・ベビーとママのリフレッシュ体操や器具を使った 3B 体操
・救命救急士による乳児の緊急時対処法・救急蘇生法などの実技講習会
といった幅広い内容で活動を行い、毎回 20 組以上の母子が参加します。

当初は、0 歳児までを対象としたサロンでしたが、卒業した母親達から 1 歳以上のクラスも開いてほしいと要望が出て、今では妊婦～幼児まで参加する幅広いサロンとなりました。



サロンの他に、

- ・産前産後の家庭訪問や日帰りケア
 - ・食育・離乳食調理実習
 - ・ママと赤ちゃんの電話健康相談
 - ・おひさまクラブ（障がいを持つ母子の交流会・勉強会）
- などの母子支援も行っています。

ジェスペールでは、これらの支援活動が途絶えることのないように重点的に支援を行うと同時に、この他の地域ともつながりを継続しながら、必要に応じた支援を行ってまいります。引き続き、被災地母子支援活動を温かく見守っていただきますようお願い致します。



◆ プロジェクト応援のお願い

ジェスペールの「東北こそだてプロジェクト」は、被災地の母子を支援する助産師の活動を支援しています。

皆様からいただいた温かいご支援は活動の原動力となっています。

被災地の母子を今後も継続してサポートしていくため、妊産婦支援に関するお志を同じくするお知り合いの方がいらっしゃいましたら、ぜひ下記サイトをご紹介ください。

<http://tohokumama.org/donation/>

また、皆様からの励ましのお声も、現地の助産師や被災地で子育て中のお母さん、ジェスペールメンバーの力になります。ご寄付いただく際に励ましのお言葉を添えていただいたり、当メールマガジンへのご感想などをお寄せください。



発行者： 一般社団法人ジェスペール

公式ホームページ：<http://tohokumama.org/>

Twitter：<https://twitter.com/tohokumama>

お問い合わせ先：info@tohokumama.org

Facebook：<http://www.facebook.com/tohokumama>

